

## JOMF 派遣医師便り (2012. 09)

### ◆ジャカルタ◆

#### バリの医療状況

#### JJC 医療相談室

原 稔

バリの医療機関を見学する機会がありました。日本人がよく利用しているのは、BIMC、Surya Husadha Hospital、Kasih Ibu Hospital、SOS international、タケノコ診療所、共愛などです。どの施設にも日本人スタッフがおります。

現地の特徴を挙げます。

- ①受診者の多くは観光客。
- ②サーフィンなどのマリンスポーツやバイクによる怪我が多い。
- ③時期により患者数に波がある。
- ④ジャカルタと比較して治療費が高い。
- ⑤犬に噛まれた患者さんが目立つ。

①③は観光地ということから想像できます。

②マリンスポーツに若干のリスクは伴いますが、中でもフライフィッシュと呼ばれるアトラクションは危険度が高いようです。人が仰向けで寝た状態のゴムボートをスピードボートで引っ張り、凧のようにゴムボートが宙に浮くというものですが、着水時の衝撃が大きく、事故が多いとのこと。死亡事故も起きています。

④は観光地価格ということでしょうか。因に丸1日入院したらベッド代だけで4~5万円かかるのは当たり前ようです。それに診察費、検査費、治療費などが加算されます。

⑤バリでは狂犬病が多発しており、特に注意が必要です。狂犬病は発症したら死に至りません。

何れの医療機関も、一般的な外傷や内科的疾患（風邪、下痢など）には対応できます。勿論、日本と同じレベルは期待できませんが、少なくとも注射針の使いまわしはありません。リゾート地ということからか、医療機関は観光客の受け入れにも力を入れており、旅行者にとっては、ジャカルタよりも受診しやすい印象です。ただし、上記のように治療費は高く、保険がないと大変なことになります。

高度な医療が必要になった際は、当然ジャカルタの方が環境は整っています。(緊急搬送先としてはシンガポールが現実的でしょう。)

最後に、透析が可能なことを複数の医療機関がアピールしている点が印象的でした。透析が必要な方を観光客として受け入れようとしています。その際、普段治療を受けている日本国内の施設との連携が重要です。また、利用者本人の病気・治療への十分な理解は絶対条件だと思います。